令和５年度　自己評価書・学校関係評価書

幼・幼保連携型

令和６年３月１８日

真庭市立河内こども園

園長　横山　智江　印

１　河内こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

しなやかな心と体で生き生きと生活する子どもを育てる

○めざす子ども像

「考えてやりぬこうとする子ども」（思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ・挑戦力）

「生き生きと明るい子ども」（元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性）

「美しくあたたかい心の子ども」（思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

２　本年度の重点目標（課題）

**本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）**

**「おどろき！ときめき！ひらめき！が生まれ育つ環境づくり**

**～コミュニケーション力と基本的生活習慣の確立をめざして～」**

**１心も体も弾ませて意欲的に環境（人･物･事柄）に関わることができる保育**

子どもたちが「なんで？」と驚いたり「どうなってるの？」とときめいたり「なるほどそういうことか！」とひらめいたりと絶えず心を動かしながら関わることができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図り、友達とのびのび、生き生きと安心して活動できる園を目指します。

**２コミュニケーション力をつける（人と関わる時に大切にしたいこと）**

日本語のきれいな響きとリズムを感じ取りながら、コミュニケーション力をつけてほしいという願いから「気持ちの良い挨拶・返事」さらに「伝わる言葉・わかる言葉・美しい言葉のやりとり」など職員がモデルになって取り組みます。そして、子どもの内面を理解しながら目と目、心と心を通わせながら関わり、思いを言葉で伝え合えるように日々の保育を大切にします。また、「絵本の読みきかせ」と「わらべ歌や童謡を歌う」時間を日課とし、感性や表現力を高める実践を重ね、笑顔が溢れる園を目指します。

**３生活リズム・基本的生活習慣の確立を保護者と共に**

子どもの情緒の安定を図り、就学に向けて基本的生活習慣の確立のため相談や、情報提供など園と家庭とが協力する園を目指します。また、メディアをコントロールできるような環境も必要だと伝えていきます。

３　本年度　河内こども園　学校評価（自己・学校関係者）評価書

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価指標 | 考　察 | 園総合評価 | 評価委員評価　　　（学校評議員評価） |
| 教育課程・指導計画 | 職員が共通理解し、指導の重点や研究テーマに沿った保育に取り組んでいる。また、今年度は講師の先生に来てもらい園内研修の場を設けることができた。その中で日々の保育について話し合う場面が増えた。 | ４ | 　４ |
| 行　　　事 | 園児の発達や育ちを踏まえて計画することができた。しかし、年々園児数が減少傾向にあるため、園児や職員に無理のないような計画をしていくようにした。 | ４ | ４ |
| 組織・運営 | 園の課題を明確にした経営計画をベースに同僚性を生かした組織作り・園運営をしている。しかし、職員数が少なく早番遅番のシフトが毎日のため、集結して打合わせ回数をたくさんは取ることは難しかった。 | ３ | ３ |
| 学級経営 | 寄り添い内面理解をすることを保育の基本とし温かい人間関係を構築している。クラスの隔てなく全職員で園児の育ちに関わっている。 | ４ | ４ |
| 特別支援教育 | 関係機関と連絡し合いながら、一人一人の困り感を理解し援助や環境作りをしている。しかし、少人数の支援と園の集団生活の中での関わりでは捉え方や思いに違いがあるため共有しにくい場面もある。 | ４ | ４ |
| 安全管理・保健指導 | 避難訓練や安全点検を毎月行い職員間で安全に気をつけるようにした。また、情緒の安定のためメデイアコントロールや絵本の貸出しなど家族との時間を大切にする取組を推奨している。また、基本的生活習慣が身につくよう生活チェックも行った。意識する保護者もいれば、意識しづらい保護者もいた。今後も伝え続けていかなくてはならない。 | ４ | ４ |
| 研修（資質向上） | 園内研修は、外部の講師に来てもらい子ども達の育ちや､遊び生活について保育のヒントを頂き研修を進めることができた。また、個々で日々の保育のアドバイスを職員間で話し合い、子どもや保育について語り合うことができた。しかし、園外の研修は参加できる時は参加したが、行きたい時に職員事情でいけないこともあった。 | ４ | ４ |
| 情報提供・保護者・地域との連携 | 保護者と日常的な情報交換に加え、1学期に3上は個人懇談、3未は希望懇談を行った。また、必要とあれば個人的に懇談を行い保護者との連携を取った。また、地域の山を提供していただき、園児の体力・忍耐力など園内ではできない経験をした。保護者への情報提供では園の思いと考えが伝わりにくい家庭もあり、情報発信の課題がある | ３ | ３ |
| 小学校との接続・連携 | 園と小学校職員同士が話し合いの場をもち、園児・児童が互いに学ぶことのできる交流の場を設けている。 | ４ | ４ |
| 子育て支援 | 園生活の出来事や子育てに参考になることを保護者に伝え、保護者が必要とした時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。 | ４ | ４ |
| 食育の推進（給食） | 野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。 | ４ | ４ |
| 食事の提供（調理） | 調理担当と園児と職員のコミュニケーションを図ることでより美味しく食べることができるようにしている。 | ４ | ４ |

４　その他必要な評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価指標 | 考　察 | 園総合評価 | 評価委員評価（学校評議員） |
| 信頼される職員 | いつも明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。 | ４ | ４ |
| 健康な心と体 | 職員同士が思いやり、周りをみてできることを進んでする協力体制ができている。 | ４ | ４ |

５　本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

子ども達の様子を1年間行事ごとに評価委員の方に見ていただいていたので、子ども達の様子もわかってもらえていた。保護者アンケートの結果は概ね良い結果をいただいた。

日々子ども達のために職員が協力し園全体で子どもの教育･保育に携わっている様子がうかがえ、職員の働きを褒めていただいた。また、子ども達の様子も、のびのびと遊んでいること、言葉で思いや考えを伝えようとしていること、困難なことにも挑戦しようとすること、友だちにも優しく寄り添えることなど心の育ちがあると評価していただいた。保護者アンケートのなかでは、「園は、子どものことについて相談しやすい。」というアンケートに対して、あまりそう思わないが6.7％だった。全体的には低い値だが、この原因として、長時間保育をする子どもが増え、1歳児から5歳児を1つの部屋で迎えを待つようになり、安全に過ごすためには、迎え時に送迎のやり方を保護者の方に協力していただき、室内迎え来ていただくことにしたため、送迎時に担任と話ができにくくなったということもあると思われる。

基本的生活習慣は、就寝・起床・入浴時間などをメディアチャレンジ週間に一緒に取り組んだ。回数を重ねるごとに基本的生活習慣やメディアについて気をつけていく家庭もあった。知らせるだけでなく保護者や家庭の気づきが必要だと思った。生活の中で必要なことなので今後も取り組んでいきたい。

６　評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

園児も保育者も少人数だからこその保育の利点を引き続き行いながら、少人数だから不利なところの改善をしていかなければならない。職員数が少ないけれども、支援を要する園児がいる中での必要とされる人材数の足りなさ、早番から遅番など大変な所をわかっていただき、職員の働きを褒めていただいた。しかし、この状態のままではよくないことを伝え続けることも必要だと助言も頂いた。

ＩＴ化が進めば園での負担も軽減できるかもしれない。導入してみないと分からないが、小学校での活用方法を聞き導入できるのであれば参考にしていきたい。

外部の講師に来ていただき園内研修を行うことができたことは、日々の生活を益々大切にし、今後も「子どもがまんなか」の気持ちで保育・教育にあたれるようしていきたい。来年度も職員体制は相変わらず厳しいものではあるので、日々の生活を大事にしていきたい。